

009

From Editor

011

表紙の時計 / ルイ・ヴィトン ヴォヤジャー ミニッツリピーター フライングトゥールビヨン

012

Editor's Choice!

ヴァシロン・コンスタンタン パトリモニー オートマティック / ピアジェ アルティプラノ /

ブルガリ ジェラルド・ジエンタ アリーナ バイレトロ 50周年モデル /

ジラルド・ペルゴイ 1966 「アース・トゥ・スカイ」エディション /

モンブラン モンブラン 1858 オートマティック クロノグラフ リミテッドエディション 1858、

世界は時計で回っている。

018

020

ジャケドロー トロピカル・バード・リピーター

◆エデンの園をテーマに小技が効いたオートマトン・ウォッチ

022

ルイ・ヴィトン タンブル スピン・タイム 2019年の新作

時のリズムを刻むキューブの軽やかな動き

024

NAOYA HIDA & Co. Ltd. NHタイプ1B

「自分自身が好きな時計を作りたい」。熱き思いが結実

027

2019年ブランド別新作情報【バーゼル編】

堅実さのなかで一点の輝きの創造に臨む

スウォッチグループが出展を取りやめ、出展社数も大幅に減少するなど、大きな変化がみられた今年のバーゼルワールド。そして各ブランドの新作は大きな話題作には欠けたものの、市場を見据えた堅実さが感じられました。バーゼルワールドおよび会場外で発表された新作をブランド別にみていきます。

063

【特集】TIME TO MOVE

未来を見据えて、一歩、前に踏み出すときがやってきた

バーゼルワールドを離れたスウォッチグループのなかのブランパン、ブレゲ、グラスヒütte、オリジナル、ハリー・ウィンストン、ジャケドロー、オメガの6ブランドが5月半ばにスイスでプレスに向けた新作発表会を開催。これらの6ブランドの主要な新作を取り上げます。

076	カシオの限定モデル「エディフィス・スクーデリア・トロ・ロツソ」リミテッド・エディション」&「Gショック GWR-B1000X スペシャル・モデル」 レーシング・チームとの提携、そしてカーボン樹脂ケースの限定モデル
078	ハミルトン 「ベンチュラ・スパイダー」 「これぞアメリカン」なベンチュラにスパイダーマンが登場
080	「ラドートゥルー・シンライン」2019年の3つの限定モデル デザイナーたちの創造力が作り出した新しい魅力
082	トリフォグリオ・イタリア 「ヴェローチ」&「リメトロ」 イタリアで誕生したディスク表示のユニークなリスト・ウォッチ
084	ボール・ウォッチ 「ムーンナビゲーター」 干潮／満潮の時刻を読み取ることが出来るタイド計を装備
086	デイオールタイムピース 「ディオールグランバルブリウムフランシユ」 オートクチュールの発想が生む華麗なレディース・ウォッチ
088	ブライトリング 「ナビタイマー REEF 8061959」リ・エディション」 パネライ 「サブマーシブルブロンズ」
089	コルム 「アドミラル」の2019年の新作
091	ミドー 「バロンチェリ」キャリバー 80 クロノメーター シリコン、マルチフォートデュアルタイム&オーシャンスターダイバー6000」
092	テイソ 「シースター1000」オートマティック&シースター1000 クロノグラフ」
093	ゴリラ 「フアストバック G-Tドリフト」
094	ユンハンス 「WG マックスビルバイ ユンハンス クロノスコープ」&「マックスビルバイ ユンハンス オートマティック Led1000」
095	トム・フォード N.O.002 タイムピース コレクション」
096	新製品情報
099	A.ランゲ&ゾーネ 「ランゲ1 25周年記念エディション」
100	ロジェ・デュブイ @ジュネーブ国際モーターショー
101	「ホーム」ポップアップ・ストア
102	ファールブルールーバ 「ブラックエディション」発表会
103	テイソ 代官山コンセプトストア
104	エスパスタグ・ホイヤー 銀座
105	「WC 銀座ブティック」 移転リニューアル / 「グランドセイコーブティック」
106	「112 インフォメーション」 / 問い合わせリスト / 次号予告

ジャケ・ドロワ、トロピカル・バード・リピーター

「エデンの園」をテーマに小技の効いたオートマトン・ウォッチ

今日のジャケ・ドロワは、18世紀に時計の世界に驚きや楽しさをもたらした時計師ジャケ・ドロワに敬意を表して、超複雑時計の開発に注力し、技術的にも装飾面でも優れたモデルを生み出している。今号では、トロピカル・バード・リピーターの魅力を探ってみよう。



ラグの側面とミドル・ケースには動物を象ったエンゲレービングが入れられる。18Kホワイトゴールドのケースは非防水で、シースルー・バックを装備する。

技術力の高さを大いにアピールするものと言える。

さて、今回入荷したモデルは、前作とシチュエーションを大きく変え、人類の始祖、アダムとイヴが暮らす旧約聖書の楽園、「エデンの園」で花の蜜を求めて飛び回るハミングバード（ハチドリ）や、極彩飾の飾り羽根を優雅に広げるクジヤクといった美しい鳥たちが、主題に置かれているのが特徴だ。本コレクションは、まず基本となる18Kレッドゴールド・モデルが2017年秋に登場し、続いてデビューしたのがケースを18Kホワイトゴールドに置き換えた本機である。ともにマザー・オブ・パールが採用されたダイアル上には、例によって細密画とエンゲレービングによってジャケ・ドロワがもつ独自の世界観が展開されており、ケース素材の変更に伴って、オフセットしたインダイヤルは、それまでのオニキスからマザー・オブ・パールが

採用されており、全体に明るさを増した。また、時分針は新たにブルード・スチールがセットされ、これによりコントラストが高められた。

もちろん、各部には大きな変更はなく、側面に動物のモチーフを描いた直径47・00mm×厚さ18・93mmの大型ケースには、これまでどおり86石、2万1600振動、パワーリザーブ約60時間のCal. RAM 89マニユアルが搭載される。ケース左側に引き下げ式のスライダーを取り付けたミニット・リピーター機構は、長めのゴングを装備したカテドラル仕様で多くのミニット・リピーターと同様に、「時」+「クォーター」分+「残りの分」を優雅な音で知らせられる。いっぽう、チャイムを一定に鳴らすためのガバナ機構はポリウムがほどよく抑えられているため、リピーターが奏でる音色に聞き入ることができる。

肝心のオートマトンは、サイド・スライダーを操作し、これをリリースすると同時にスタートする。無論、専用のパレールを搭載しており、まずはじめに主役たる①ハミングバードが羽ばたきを開始し、蜜を吸うべく花の方向へと飛ぶ、②3時方向の3匹のトンボが翅を震わせて飛翔する、③さらに5時位置のクジャクが羽をゆつくり広げた後にこれを閉じる、④写真では見えないが、2時方向の茂みの中に南国を代表する鳥、トカカク（嘴が巨大な極彩色の鳥で、森永チョコボールの箱に描かれた、あの鳥といえは分かるだろうか）が隠れており、このトカカクが顔を出し、その大きな嘴を開閉する。⑤そしてこの間、9時半位置の滝の水が流れ続ける。いうまでもなく、これら多彩な自動人形の連続技はオートマトンがもつ醍醐味である。

しかし、実はそれだけではない。花の前で空中停止し、長い嘴で蜜を吸うハミングバードはその関係から毎秒50回以上の高速で羽ばたくと言われているが、本機ではこの動作を見事に再現しているのだ。驚くなかれその小鳥は1秒間に約40回のペースで羽を動かすのである。また、面白いことにはトンボの翅にはスーパールミノヴァが塗られており、暗闇でもその羽ばたきを見ることが出来る。まさに本機は、小技の効いたオートマトン・ウォッチだと言える。

2012年以来、オートマタ（自動人形）機構を搭載したグラント・コンプリケーション・モデルを精力的に製作しているのがジャケ・ドロワである。ごく一部を除き、ミニット・リピーター機構などを備えたこの一連のコレクションは、超複雑なモデル——たとえば、小鳥が羽を震わせながら愛らしい声でさえずる

「チャーミング・バード」や、ミニット・リピーターの音色に合わせて小鳥が動作する「バード・リピーター」を筆頭に、様々な形態の鳥たちが登場する。もちろん、これらは18世紀のジャケ・ドロワが作り上げたオートマトンに敬意を表した超複雑モデルであり、同時にそれは現代のジャケ・ドロワ・グループがもつ



オートマトンがセットされた大きなダイヤルはマザー・オブ・パール製で、10時に滝、9時に3匹のトンボ、7時にハミングバード、5時にクジャク、2時半の茂みの中にトカカクが潜む。8個の限定生産で、価格は7765万2000円。

2019年ブランド別新作情報【バーゼル編】

堅実さのなかで一点の輝きの創造に臨む

3月21日から3月26日の6日間にわたってスイス・バーゼルのメッセ会場で開催されたバーゼルワールド2019。従来よりも会期が2日間短縮された昨年からの出展社の減少などの変化が見られたが、今年はスウォッチグループが参加を取りやめるという大きな出来事があった。昨年は出展ブランド数がそれまでのおよそ1300から600に半減した。しかし今年はさらに減少して520ブランドとなり、入場者数は22%減の8万1200人と主催者側は発表した。

メイン会場であるホール1の1階の1/3以上を占めていたスウォッチグループのブースがなくなってしまったため、そこにはレストランやプレスセンターなどが設けられた。いままでも人混みを通り抜けることに難儀していたが、今年は「人にぶつからなくなったね」と語る人は多かった。そして「なんだか寂しい」という思いは、毎年、バーゼルの足を運んでいる誰しもの思いだったにちがいない。

こうした環境のなかで各ブランドの新製品が堅実路線だったことは否めない。しかしパテックフィリップはふたつの新しいムーブメントを発表。ゼニスは一昨年にプロトタイプで登場した「ゼニス・オシレーター」が製



3月26日の最終日に行なわれた記者会見で「2020年はより多くの革新的な試みを行う」と語るバーゼルワールド・マネージング・ディレクターのミッシェル・ロイス・メリコフ氏。弁護士でもある彼はバーゼルワールドを運営するMCHグループに所属し、2018年5月に現職に就いた。

品化に漕ぎ着け、タグ・ホイヤーからはカーボン製ヒゲゼンマイを搭載した「オータヴィア」コレクションが発表された。

ブライトリングは1959年の「ナビタイマー」を復刻。見た目は文字どおりの「そっくりさん」だが、復刻版には新たに開発した自社製の手巻きクロノグラフを搭載された。日本勢ではシチズンが昨年発表した年差±1秒のクォーツ・ムーブメントを腕時計に搭載し、今秋には発売の予定だ。これら5社に共通することはムーブメントの一部の部品製造にLIGA工法を用いた点にある。これはユリス・ナルダンが先鞭を切ったが、徐々に他社にも広がりを見せている。

ところで2020年は4月末から5月初めにかけてSIHHとバーゼルワールドが連続して開催されることが決定された。10年間にわたって続いた1月にSIHH、3月にバーゼルという決まりごとに終止符が打たれることになる。そしてバーゼルワールドはスマートウォッチとウェアラブルに特化した展示会場も設けるといふ。また一般の時計愛好家に向けた「スベシヤル・オフアール」も予定される。果たしてどのように様変わりするのだろうか。来年に期待したい。

(香山知子)

HUBLLOT

ウブロ

☎LVMHウォッチ・ジュエリー ジャパン ウブロ ☎03-5635-7055

“フュージョン・コンセプト”を柱に常に新たな試みに挑戦

ウブロは「アート・オブ・フュージョン」をコンセプトに掲げて、さまざまな素材やアイデアを融合し、またクルマやスポーツ、ファッション、アートなどの幅広いジャンルとのコラボレーションを展開してきた。そして毎年、新作には新しい試みが見られるが、今年は初めてウニコを搭載したクラシック・フュージョンがフェラーリとのコラボレーション・モデルに加わり、またカーボン・コンポジット・ケースの“スピリット オブ ビッグバン”にトゥールビヨンを装備するなど、クリエイションの広がりを見せた。



ビッグ・バン ウニコ
キングゴールド レインボー

カラーはウブロにとって欠かせない要素だが、今年はルビーやアメシスト、ブルトパーズ、サファイアなど8種類のカラー・ストーンをセットしたビッグ・バンがお目見えした。直径45mmの18Kキングゴールドのケースには176個、ベゼルに48個のバゲットカット、そして文字盤に212個のストーンがセットされる。ムーブメントはウニコのCal.1242(38石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約72時間)を搭載する。カラー・ストーンと同じ色調のマルチカラーのアリゲーター・ストラップも登場した。価格1047万6000円。今夏発売予定。



クラシック・フュージョン
フェラーリ GT キングゴールド

ウブロは2012年からフェラーリ・モデルを展開してきたが、今年はクラシック・フュージョンで登場した。そしてクラシック・フュージョンでは初めて自社製自動巻きクロノグラフ・ムーブメントのウニコが搭載された。直径45mmの18Kキングゴールドのケース・デザインはフェラーリのデザインセンターが手がけ、既存のクラシック・フュージョンには見られない力強さが加わった。ムーブメントは2018年発表のウニコの2代目となるCal.HUB1280(43石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約72時間)を搭載。価格444万9600円。今秋発売予定。限定500個。



スピリット オブ ビッグ・バン
カーボン ブルー

2014年にデビューしたトノー・シェイプの“スピリット オブ ビッグ・バン”にトゥールビヨンを装備したモデルが登場した。ケース素材もこのシリーズ初のカーボン・コンポジットが採用された。搭載する手巻きのCal.HUB6020(25石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約115時間)は既存のCal.HUB6021を改造したもので、時分表示を3時、トゥールビヨンを6時、パワーリザーブ表示を8時位置に置く。ケースは直径42.00mm×厚さ13.25mm。ストラップのワンクリック方式も同シリーズでは初となる。価格1083万2400円。限定100個。今秋発売予定。

未来を見据えて、一歩、前に踏み出すときがやってきた



昨年7月にグラスヒュッテ・オリジナルのCEOに就任した時計師出身のローランド・フォン・カイト氏。



ブレゲの工房には伝統的な旋盤を操作しやすいように改良した現代版のギョーシェ・マシンが並ぶ。



“フィフティ ファゾムズ”を説明するブランパンCEOのマーク・ハイエク氏。



オメガはアポロ11号の月面着陸50周年を新作やエントランスの設えで祝った。



ジャケ・ドロワのテーマである「自然」を表現したテントが屋外に設けられ、ランチ会場となった。



スウォッチ グループの傘下となって初めてプレスに向けて公開されたハリー・ウィンストンの工房。

バーゼルワールド出展を中止したスウォッチグループだが、その代替案としてブレゲ、ブランパン、グラスヒュッテ・オリジナル、ハリー・ウィンストン、ジャケ・ドロワ、オメガの6ブランドは各国の一部のプレスに向けて新作を披露し、併せて工房見学を行う「TIME TO MOVE」を企画した。そして5月14日から3日間、国別に分けられたチームが1日2ブランドを取材するプログラムが組まれた。

13名が参加した日本チームの初日の目的地はジュネーブ。最初はグラスヒュッテ・オリジナルで、ジュネーブ空港近くのホテルが会場となった。新作の目玉として本格的なダイバース・ウォッチが発表された。なおグラスヒュッテ・オリジナルは昨年7月にCEOが交代し、ブレゲのセールス担当副社長だったローランド・フォン・カイト氏が就任した。マスター・ウォッチメーカーの資格をもつCEOという稀有な存在であり、今後、それがどのように影響していくかが興味深い。

午後はジュネーブ郊外ブラレワットにあるハリー・ウィンストンの工房に向かった。数多くのレディースのジュエリー・ウォッチの新作は、女性たちが目を輝か

せる美しさの創作の強化と、それを實現する細工の追究の賜物といえるだろう。

2日目の午前中に訪れたジュウ溪谷のブレゲの工房ではアブラアンルイ・ブレゲから7代目にあたる副社長のエマニエル・ブレゲ氏に迎えられた。今年の新作は文字盤の装飾やスケルトンの仕上げにも力が入られ、工房見学でも伝統の継承が強調された。

午後は同じくジュウ溪谷にあるブランパンを訪問。新作のメインは今日の主力である「フィフティファゾムス」で、歴史を語る復刻モデルも登場した。

最終日はラ・シヨード・フォンのジャケ・ドロワでスタートした。オートマトンの緻密な動きに目を引かれたが、これを飾るエナメルや彫金細工の工房が設けられていることが、ここの特徴でもある。

そしてビル／ビエンスにあるオメガでプログラムが終了した。アポロ11号の50周年が今年の大きなテーマであり、このためにムーブメントやゴールドの配合が新たに開発され、意欲作が誕生した。

こうしてブランド側から新作の説明を受け、また製造の現場を見る、という充実した3日間が幕を閉じた。

OMEGA

オメガ

☎オメガお客様センター ☎03-5952-4400

ムーブメントと 外装の両面で 新たな領域を開拓

オメガは2017年11月に稼働を開始した新工房で現在、年間に約70万個を製造する。この工房内でテストが行われる1万5000ガウスの耐磁性を条件とするマスタークロノメーターもレギュラー化が進んでいる。

さてオメガにとって今年は何の年で、アポロ11号の人類初の月着陸成功から50周年を迎えた。これを機にコーアクシャルマスタークロノメーターの手巻きクロノグラフムーブメントが登場。またプラチナゴールドや18Kムーンシャインゴールドなどの新しい合金や、セラミックスの新しい色など、スウォッチグループ傘下にある専門メーカーの技術協力を得て、外装にも新たな試みが続けられる。



スピードマスター ムーンフェイズ

2016年に登場した“スピードマスター ムーンフェイズ”のケースに、Pt950より強い輝きのプラチナゴールドが採用された。直径44.25mm×厚さ17.05mmのケースにはポリッシュとサンドブラスト仕上げが施され、ブルー・セラミックスのベゼル・インサートが付く。またムーンディスクもセラミックス製で、プラチナのリキッドメタルで作られた月を備える。18KWG製インデックスにはバゲットカット・ダイヤモンドをセットする。60分と12時間の積算計を同軸に備える、コーアクシャルマスタークロノメーターのクロノグラフのCal.9905(54石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約60時間)を搭載する。価格626万4000円。7月発売予定。



シーマスター ダイバー300M クロノグラフ

昨年は“シーマスター ダイバー 300”の第4世代が発表されたが、今年はクロノグラフが加わった。セラミックスを多用した点が特徴で、逆回転防止ベゼルと文字盤のほか、クロノグラフのプッシャーにも初めてセラミックスが採用された。ベゼルのダイビング・スケールは、セラミックスにレーザー・エンレービングで数字を彫り、そこにエナメルを埋めて焼き、ポリッシュをして完成する。直径44.0mm×厚さ17.2mmのSSケースにコーアクシャルマスタークロノメーターのCal.9900(54石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約60時間)を搭載。300m防水。価格86万4000円。8月発売予定。



シーマスター プラネット オーシャン

“シーマスター プラネット オーシャン”は2005年に誕生した。この最初のモデルは明るいオレンジの逆回転防止ベゼルとストラップが特徴的だったが、今年は新たにオレンジのセラミックス製逆回転防止ベゼルが登場した。この色は酸化ジルコニウムで作ったリングにセシウムを塗布し、窒化処理すると発色するという。純白の文字盤もセラミックス製。直径43.50mm×厚さ16.04mmのSSケースとブレスレットにコーアクシャルマスタークロノメーターのCal.8900(39石、毎時2万5200振動、パワーリザーブ約60時間)を搭載する。600m防水。価格75万6000円。10月発売予定。

KESAHARU IMAI
Publisher

TOMOKO KAYAMA
Editor in Chief

KAZUO TSUBOI
Advertising Director

SHUNSUKE OGAWA
Production Director

HIROSHI SASAGAWA
Circulation Manager

DTP
BASE

Correspondent
Washington, D.C. Bureau
(Pictorial Press International)
Mikako Burks

Cover Photo/
Courtesy of Louis Vuitton

●本誌に掲載されている価格は
令和元年5月31日現在の調べによるものです。
本文中の価格は消費税込の総額表示です。
© WORLD PHOTO PRESS 2019

【次号予告】

2019年の

新作を掘り下げる

今年の新作発表会も一段落し、日本市場に入荷する時期となりました。

例年のように1月にはジュネーブでSIHHをはじめとする新作発表会が開催され、

3月には出展社数は大幅に減少したもののバーゼルワールドが開かれました。

さらにバーゼルワールドへの出展を中止した

スウォッチグループのなかの6ブランドが

5月にスイスで一部のプレス関係者に向けて新作を発表しました。

すでにそれらの概要はお伝えしましたが、注目された新作をさらに

詳しく取り上げ、その魅力を探ります。

「世界の腕時計」第141号は2019年9月6日発売予定です。

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします!

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **6,584円(税込)**
(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



【お申し込み方法】

フリーダイヤル 富士山 富士山

- お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**
- インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>
- 携帯電話から <http://223223.jp/m/sekainoudedokei>
- QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジンスerviceカスタマーセンター
パソコンサイト:<http://fujisan.co.jp/cs>
メールの場合:cs@fujisan.co.jp
に、お問い合わせください。

■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンスerviceとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承下さい。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承下さい。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

ワールドフォトプレス ホームページ <http://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1201

世界の腕時計

No.140

令和元年7月20日発行

発行人……………今井今朝春

編集人……………香山知子

発行所……………株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

編集部……………☎03-5385-5667 FAX.03-5385-5617

広告営業部…☎03-5385-1350 FAX.03-5385-1348

販売部……………☎03-5385-5701 FAX.03-5385-5703

印刷所……………大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。